

せたがや 町総連だより

第 61 号

発行 世田谷区町会総連合会
世田谷区若林 4-31-9 ポライト第2ビル202
☎・FAX 03-5481-3456
発行人 副会長 上田 啓子
編集 情報誌編集委員会
編集委員長 堀江 義之

地域情報

北沢地域

つながりのある町会をめざして

赤堤5丁目町会 会長 吉村 実

赤堤5丁目町会は、赤堤5丁目の住民（住民登録世帯数2,250世帯、町会員世帯数632世帯、町会加入率28%、2025年4月現在）で構成されています。東側に赤堤4丁目、西側に桜上水4丁目・桜上水3丁目に挟まれている、京王線下高井戸駅からオオゼキ通りまでの縦に細長い地域です。

この地域は、松沢小学校、松沢中学校の学区に属しています。児童生徒数は微増傾向です。

役員は50歳から88歳までの者が務めています。なかなか40歳代の方が見付かりません。

本町会では、災害に備えて、人と人とのつながりができることが重要という考えから、いろいろな取り組みを企画しています。

一つは、「東京都地域の底力発展事業助成」を活用して、令和4年度から「高齢者向けスマートフォン教室」年1回、令和5年度から「シニアさわやか体操教室」月2回通年、令和6年度から



シニアさわやか体操教室

「みんなの書道教室」月2回通年を開催しています。令和6年度の参加人数は、「高齢者向けスマートフォン教室」22名、「シニアさわやか体操教室」516名、「みんなの書道教室」359名でした。

そのほか、親

睦バス交流会を4月か5月に、安否確認訓練を7月に、スタンドパイプ訓練を3月に行っています。親睦バス交流会はコロナ禍により、令和2・3・4年度の3年間は中止し、令和5年度から再開しました。参加者は、



みんなの書道教室

令和5年度32名、令和6年度36名、令和7年度45名と少しずつ増えてきています。

さらに、昔から行っていた「夏休みラジオ体操」は10日間実施してきましたが、子どもたちがスムーズに2学期の学校生活に戻れるよう、昨年度から夏休みに入って7日、2学期始業前に3日行うように分けて実施することにしました。

また、令和5年度から「歩こう会」を年2回実施しています。今年度からは、昭和59年に「発見わがまちのいい風景」をキャッチフレーズに、9万通を超える区民投票の結果、選定された「せたがや百景」を巡る歩こう会を企画し、みんなで巡り始めました。

これからの災害に備え、自助はもちろんのこと、共助が重要になってきます。そのためにも町会に加入していただき、知り合いを増やしておくことが大切です。ところが、若い住民の多くが、

「災害時は自分で何とかします」とおっしゃり、町会に加入しません。災害時には町会加入未加入

関係なく、互いに助け合わなければなりません
が・・・。

玉川地域

町会は小粒でもピリリと・・・

尾山台灯交会はどこに？

環状8号線と丸子川に挟まれた国分寺崖線の南側に位置する。

国分寺崖線とは…武蔵野台地を古多摩川が削ってできた河岸段丘で、立川市から大田区田園調布まで連続する地形。延長は約30km、崖の高低差は10～20m。

尾山台灯交会 会長 増田 晴彦



尾山台灯交会の位置関係



尾山台灯交会活動時のジャンパー

何も無一！

町内会には学校・幼稚園・保育園等はない。病院・クリニックもない。公共施設も全く無い。店舗も殆ど無い。唯一環8沿いにコンビニが。風致地区に位置するので、建ぺい率・容積率が低い為、マンション・アパートがほとんど無い。それゆえに、世間からは『高級住宅地』と言われている。

ちっちゃな町会

旧玉川尾山町（現尾山台1・2丁目）に小さな町会が3つ存在し、その1つが尾山台灯交会。世帯数は約260。役員は10名。世田谷区内でも最小の町会に属する。



尾山台灯交会総会



尾山台灯交会懇親会

楽しくなければ・・・?!

会員数が少ない為、我が町会独自のイベントの開催は出来ないが、世田谷区役所主導のイベントには積極的に参加。古布回収・歩こう会・避難所運営訓練・防災塾・歳末夜警・合同新年会等々。各イベント終了後は反省会（飲み会）・懇談会を実施。喧々囂々の話し合いも。各会員の楽しみの1つになっている。

また、毎年数回、役員会と共に各分野のゲスト

を招いて交流会・懇親会を開催している。役所・警察・消防・区議・消防団・PTA・おやじの会等。ぶっちゃけ、会合というよりは宴会に。もちろん出席率は高い。ボランティア活動ばかりではなく『娯楽』の活動も必要と。

楽しくなければ、町会活動は充実しないと考える。

これからの町会は？

どの地域も少子高齢化が進んでいる。あちこちで「町会役員の成り手がいない」との声を聞く。



避難所運営訓練の様子



防災塾の様子

仕事をリタイアした者、特に男性は居場所・抛り所が無いようである。そこで必要なのが『地域とのつながり』。とりあえず町会活動に参加してみるべきである。…話し相手が出る。仲間が出る。情報が増える。そして『生きがい』が見つかる。

尾山台灯交会は『楽しいコミュニティ』を目指して、今後も活動していきたいと考えている！
AIに負けない町づくりを！

砧 地 域

法人格 砧町自治会の活動

法人格 砧町自治会 会長 鈴木 清 美

法人格砧町自治会の範囲は、環状8号線、世田谷通り、城山通り、仙川に囲まれて砧1丁目から砧8丁目対象で約1,400世帯加入いただいています。この地域は、砧町自治会の他に二つの町会、自治会が入り混じってわかりにくいところもありますが、元気に楽しく活動しています。また、地域にはウルトラマン商店街もあり、とても住みやすいです。砧町自治会は、昨年創立60周年を迎えることができました。偏に先輩方が、住み良い安全安心なまちづくりを目標に力を合わせて頑張ってくださいのおかげで、現在に至っています。また、昭和39年にご寄付などによって建てられた会館を今も会員の活動できる場所として使っています。

砧地区の町会自治会への連携は勿論のこと、砧町自治会としては、毎月の理事会のほか、5月は総会と5月30日のゴミなしデイ（地域内を歩いて清掃活動）、6月は組長会（会員が関係機関団体に直接話が聞けて、質問できる会）、7月は納涼

盆踊り大会（金・土と2日間開催）、10月は防災訓練（在宅避難も発信）、12月はイルミネーションパトロール（子どもたちとイルミネーションを見ながらのパトロールで、この時は東京都、成城警察、砧まちづくりセンターからも参加）、3月は会員研修とさくら祭りが主な活動です。通年では、月2回の夜拍子木をたたきながら防犯パトロール、毎週月曜日、近隣小学校朝の見守りパト



砧町自治会のさくらまつりで来場した子どもたちがメッセージを書き満開してくれたさくらボード。

ロールを実施しています。6年間の児童の成長がとても励みになっています。それから、月2回の公園清掃も行っています。落ち葉が多い時には、45リットルのゴミ袋が40個以上になります。

砧町自治会は、東日本大震災後に避難所、在宅



砧町自治会主催・祖師谷南商店街共催、毎年夏に「砧8丁目児童遊園」で行われる納涼盆踊り大会に毎年たくさんのお客様が来場し、大盛況で楽しい時間を過ごしています。

避難で一番大切なこと、困ることは何かを考えました。食べることは何とかなると思います。トイレは何とかなると思いがちですが、私達は一番に考えることだと思いました。そこで、サレジオン国際学園の京先生のご指導で、水が止まってしまってもいつでもどこでもトイレを使えるように「安心トイレ」と命名した簡易トイレの使い方や常備しておくための作り方を、防災訓練や会員研修などで発信しています。参加者からは、勉強になった、参加して良かった、常備して困らないようにします、と感想をもらいました。

砧町自治会は、一人でも多くの会員さんが困ることがないように安全安心に毎日が過ごせるように考えています。今後の取り組みについては、関係機関団体などと連携して会員の皆様の声に耳を傾けて活動して行きたいと思います。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

烏山地域

自治会運営に思う事

UR 芦花公園団地自治会 会長 龍岡 光一

私はこの「芦花公園団地」に移住して来てから約10年になります。自治会業務としては「監事（監査役）」を5年、昨年度より自治会長を務めています。緑あふれるケヤキ並木や、日ごろからの行き届いた環境整備に満足しています。

しかしながら「団地自治会運営」の面からは、ご多聞に漏れず「多事多難」の状況にあります。当団地には510戸の住民が入居されていますが、自治会員として登録されている方は170戸前後で「加入率としては三割強」と言ったところです。少しでも多くの方々に参加頂けるように、日ごろから防災活動（啓蒙・訓練）懇親行事（花の会～）集会での顔合わせ…など試みていますが、なかなか思うに任せません。思うに次の様な要因がある様に感じます。

- ① 基本的に賃貸住宅であるが故に「住民各位の居住者意識（当事者感覚）が非常に低い
- ② 住人の「居住歴」に大きな差があり（公団住宅時代から50～60年住んでいる方々と、短期間腰掛で住む若い方々との間の）「住まい」に対する「愛着心」に差異がある
- ③ その結果「高齢者と若年層」の間に思考面・体力面・メディア対応力などに大きな「溝」があ

り、なかなか「共通の価値観」を共有できない
先月世田谷区が主催する「自治会活動を広げる（協力者を増やす）には～」という講演会（区民会館ホール）があり「地域活性化・街づくりコンサルタントの専門家」が講師を務めた講演会を聴講しました。あまり大きな期待もせずに参加したのですが「これからの自治会運営のあり方」について、興味深い話を聞く事が出来ました。

① 多くの自治会の現状

- ・40代以下へのアンケートでは、住民の80%が



自治会防災訓練
ガス発電機の実験

自治会活動の実態を知らない

- ・加入しない主な理由（加入の意義・魅力が感じられない、役の負担が大きいなど）
- ・担い手不足の要因（高齢者の就業率や女性有業率の上昇）

② 「自治会加入率」に拘る時代は終わった

- ・自治会員にムリヤリ引き込むのではなく「協力者・ボランティアを募る」事に注力すべき
- ・『ゆるサポ』（できる人ができる時にできることをするボランティアシステム）
- ・自治会加入を前提としない「多様な機会・仕組み」を提供する

③ 昭和・平成・令和と時代の変化に伴い「自治会活動の在り方」も当然変わるべきだ

- ・昭和と同じやり方は通用しなくなっている、今の住民ニーズに合った運営活動へ転換
- ・電話、FAX、回覧板の時代でもない、若い世代を呼び込むデジタルの活用も不可欠
- ・イベントは役の強制ではなく「実行委員会方式」で多様な担い手、協力を呼び込む

④ 従来の「防災活動」を「防災フェス」と呼称を変え、ネットを通じて「楽しいイベント」として周知し、参加者を増やし住人同士の輪を広げる（最近、この手のイベントが増えている）

- ・当団地でも一昨年に都や区の協力を得て、比較的大がかりな「防災フェス」を実施し、集客に近隣の保育園などの協力（父兄と幼児が参加）の下に実施したところ、200人を超す参



団地内観桜親睦会

加者の動員があり盛況となった。

以上縷々述べてきましたが、当団地自治会においてもこの数年間「住民の自治会活動への参加意識の向上（自治会員数の増加）」を目指して数次に亘り活動をしてきました。

- ・自治会員募集・啓蒙チラシ（もし自治会がなかったら～）の全戸配布
- ・掲示板を活用した「随意協力者の募集」（例）選挙協力や国勢調査における要員確保
- ・集会や懇親会、イベントへの勧誘

等を実施してきましたが、なかなか「住民の参加意識・当事者意識の向上」には繋がりません。

前段で述べた様に「女性や高齢者の就業の変化」や「全住民の共通の価値観を築く事の難しさ」の下で、自治会活動に対する「考え方や理解と協力を得る為の術」を“時代の変化と共に”考え直す時機に至っている様に感じます。

世田谷地域

上町のまちづくりを担う仲間たち

桜町会 会長 榎本 一 弥

私たちの町会は、ボロ市が開催される代官屋敷の向かいに在る、「上町まちづくりセンター」管内で活動をしています。毎年8月にJRA馬事公苑前のけやき広場で「子ども大会」を開催しています。この大会には「上町まちづくりセンター」管内に在る「桜町会」「松丘町会」「世田谷2丁目町会」「上町町会」「弦巻町会」「東町会」の6町会と近隣の「桜小学校」「弦巻小学校」「松丘小学校」の3つの小学校のPTA、「桜木中学校」「弦巻中学校」の生徒とPTA、「青少年委員」「上町あんしんすこやかセンター」「社会福祉協議会上町地区事務局」「（一財）進化生物化

学研究所」「世田谷消防署」「世田谷警察署」「JRA馬事公苑」の皆様、全18団体と上町まちづくりセンター、世田谷区の職員の皆様のご協力のもと、全ての団体が一団となってこの「子ども大会」を開催しています。

令和6年度は第61回を迎え、僅か3時間の間に約1,000の方が来場し、ポッチャ、ストラックアウト、昔の遊び等各コーナーで遊び、消火器を使っての消火の体験やミニチュアホースや白バイに乗って記念写真を撮って親子で楽しんでいます。

他に、化石を手で触り、珍しい生き物の展示などを見て、学びそして友達作りをしています。



このイベントは子供達に向けてのイベントの開催も目的ですが、18の団体と世田谷区の職員の皆様との協力、協賛で、参加しました実行委員全員の人達の親睦も主な目的と言っても過言ではありません。上町まちづくりセンター管内にある、行政

にかかわる団体の全てが一丸となってこのような事業を通して関わる事によって、この町の子供達の安全・安心なまちづくりが出来ると共に、防火・防災、防犯、災害への取り組みにも繋がります。

また、この行事に協賛して頂いた「JRA馬事公苑」「世田谷信用金庫」「東急電鉄(株)」「サミットストア桜店」「日赤上町分団」、協力して頂きました「東京農業大学第一高等学校中学部」と数多くの皆さんが一同に会して開催した大会です。

町会や自治会だけでは出来ない繋がりは、年一

度のこの大会だけではなく、この町で開催される「ほたる祭り」や「ボロ市」等の行事を通して、色々な団体の皆さんと顔見知りになり、一緒に行事を盛り上げ、生きた繋がりを普段から続けることがとても大切だと思っています。

このイベントには、世田谷区が主催する「地域交流ラボ」の活動をしている6名の「東京農業大学生」にも参加して頂きました。各ブースを観て、参加し、このイベントの様子を「上町ラバー」という小冊子に掲載し、ボロ市で配布して上町の魅力を広めていただきました。農大生の皆さんありがとうございました。

私はこの町で生まれ、育ち、家庭を作り、子供もこの町で育てました。子供のころはお祭りの時には「大太鼓」を引き回し、アイスクリームや梨をもらった事や、中学生になってからあこがれの「大神輿」を担いで町内を渡御して廻った事は今でも思い出になっています。

桜町会には20年ほど前から在籍し祭礼の他、交通安全の広報活動、年末の夜間警備、防災の避難所運営委員等のお手伝いもしてきました。

私が愛するこの上町地区を誇りに思っています。これからもよりよい街になることを願って活動していくつもりです。

町総連ニュース

表彰

▼令和7年6月19日 東京都町会連合会表彰

令和7年度は3名の方が表彰を受けられ、6月19日(木)に式典が行われました。

これまでのご実績に敬意を表するとともに、今後の益々のご活躍にご期待いたします。

岩波 桂三 副会長 (法人格成城自治会 会長)

高橋 和夫 副会長 (鳥山下町会 会長)

河野 文彦 理事 (若林町会 会長)

編集後記

せたがや町総連だより第61号を、お読みいただきありがとうございます。

私が編集委員になって2回目の春が来ました。

はじめは不安なことばかりで、続けていけるのかと心配になりましたが、他の町会のいろいろな話が聞けて今では楽しみです。会員の募集方法や町会費の集金方法等、各町会が違うやり方で行われているのを聞けて大変勉強になっています。他の委員の皆さまや、事務局の方々に支えられてなんとかがんばってこられました。感謝申し上げます。

今後とも、せたがや町総連だよりをたくさんの人に読んでいただき、楽しんでもらえたらうれしいです。

編集委員 菅原 京子

世田谷区町会総連合会のホームページ

世田谷区町会 検索

※二次元コード



スマートフォン等で読み取って、簡単にホームページを見ることができます。